

施設利用も費用で二の足

11/10(土) 18 名参加

会場:クリニックふれあい早稲田

初めに大場クリニック院長が、スライドを示しつつピッグ病の解説をされた。比較的、若年に発症し、ある会社員男性の例では、記憶力はそれほど低下していないが、スーパーでお茶の葉を持ち帰ろうとした。このように反社会的行動といわれる行為がよく見られる、とのことであった。その後、自己紹介をして次のような具体例を話し合った。

- 男性のNさんは、84 歳の実母と同居し介護しているが、えん下困難となり、医師に胃ろうを勧められているが、判断に迷っている。
- Tさんは姑が発症し同居を始めた。このクリニックのデイが気に入って通っている。だが世話が大変で、グループホームへの入居を考えているが、月約 15 万円の出費に夫が反対し、困惑している。
- 夫婦二人とそれぞれの母親の 4 人暮らしで、夫の母 87 歳を妻の母 86 歳が、同室に寝起きしながら面倒をみている。

さまざまな困難に直面しながら介護を続けているこ苦労に、改めて頭の下がる思いをしたつどいてあった。

(田中麻)